

The Celebration

[DOGUME 95] The Vow of Chastity [ドグマ95] 純潔の誓い

- [1] Shooting must be done on location. Props and sets must not be brought in.
撮影はロケーション撮影でなくてはならない。小道具やセットを持ち込んではいけない。
(If a particular prop is necessary for the story, a location must be chosen where this prop is to be found)
(もしストーリーの都合上、特定の小道具が必要な場合は、その小道具が見つかる場所をロケーション場所を選ぶこととする)
- [2] The sound must never be produced apart from the images or vice versa.
映像とは別のところで音を作り出してはならない。そしてまたその逆も同じ。
(Music must not be used unless it occurs where the scene is being shot)
(音楽はシーンの撮影中に必然的に流れてくる場合でなければ、使ってはならない)
- [3] The camera must be hand-held. Any movement or immobility attainable in the hand is permitted.
カメラは手持ちであること。手で出来ない動きや静止についてはこの限りではない。
(The film must not take place where the camera is standing; shooting must take place where the film takes place)
(映画はカメラが立っているところで作られるのではなく、映画が作られるところにカメラがなくてはならない)
- [4] The film must be in colour. Special lighting is not acceptable.
映画はカラーでなくてはならない。人工的な照明は認めない。
(If there is too little light for exposure the scene must be cut or a single lamp be attached to the camera)
(露出に十分な光が得られない場合は、そのシーンはカットするか、カメラに灯りをつたけつづけることとする)
- [5] Optical work and filters are forbidden.
オプティカル処理やフィルター使用は禁止。
- [6] The film must not contain superficial action. (Murders, weapons, etc. must not occur)
表面的なアクションは入れてはならない。(殺人、武器などが出てきてはならない)
- [7] Temporal and geographical alienation are forbidden. (That is to say that the film takes place here and now)
時間的、地理的な乖離を認めない。(つまり、今ここで起こっていることを擲らなくてはならない)
- [8] Genre movies are not acceptable.
ジャンル映画(アクション、SFなどは)、認めない。
- [9] The film format must be Academy 35mm.
フィルムのフォーマットはアカデミー35mm(スタンダードサイズ)にすること。
- [10] The director must not be credited.
監督はクレジットに載せてはならない。



98年カンヌ国際映画祭審査員賞受賞

ニューヨーク批評家協会外国語映画賞受賞

ロサンゼルス批評家協会外国語映画賞受賞

ゴールデングローブ賞外国語映画部門ノミネート

セザール賞外国語映画部門ノミネート



ドグマ#1



©Nimbus Film ApS



IN SELECTED THEATRES

トリーネ・ティアホルム
Trine Dyrholm

ウルリク・トムセン
Ulrich Thomsen

パプリカ・ステーン
Paprika Steen

ヘニング・モリツェン
Henning Moritzen

ヘレ・トレリス
Helle Dolleris

トマス・ボーラーセン
Thomas Bo Larsen

ピアテノイマン
Birthe Neumann

トマス・ヴィンターベア監督作品

愛だけじゃない、憎しみだけじゃない

脚本-トマス・ヴィンターベア/モーウンスルコー 製作-ピアギッテ・ハル 撮影-アンソニー・ダッド・マントル D.F.F.

編集-ヴァルデイス・オスカー・ドゥッティル 録音-モーテン・ホルム ライン・プロデューサー-モーテン・カウフマン

1998年/デンマーク映画/1時間46分/35ミリ/カラー 提供・製作-NIMBUS FILM 配給-ユーロスペース

Produced by NIMBUS FILM ApS / DR TV / SVT Drama With support of NORDIC FILM & TV FUND / THE DANISH FILM INSTITUTE

セレブレーション The Celebration



98年カンヌ国際映画祭審査員賞受賞

ニューヨーク批評家協会外国語映画賞受賞
ロサンゼルス批評家協会外国語映画賞受賞
ゴールデングローブ賞外国語映画部門ノミネート
セザール賞外国語映画部門ノミネート

監督・脚本・原案=トマス・ヴィンターベア

1998年/デンマーク映画/
1時間46分/カラー/1:1.37
提供・製作=NIMBUS FILM
配給=ユーロスペース
協力=デンマーク大使館

藤原智美(作家)

胸をナイフで裂かれるような快感。
これほど体に残る作品は
何年ぶりだろう——

私は監督として、個人の趣味趣向を捨てます。

私はもはやアーティストではありません。私は“作品”を作ることをやめます。
なぜなら美しさや調和といったものより、真実が重要だから……。

すべてを神の名のもとにおいて

トマス・ヴィンターベア

家族の秘密——。その、愛と憎しみの夜

●褐色の大地に囲まれた土地にその家はあった。その領主は還暦を迎え、伝統にのっとられた祝宴が行われようとしていた。いまはもう独立した子供たちを迎え、多くの親類や友人たちに囲まれて。しかしその祝宴が、そして美しい邸宅が、過去を蘇らせ、真実を見出し、こうとは、その日の招待客の誰一人思っていないか

た。ひとりの息子を除いては。かつてあった、父親による双子の息子と娘への近親相姦。そして2か月前の、その娘の自殺の真相。息子の発した言葉が、不協和音となって屋敷を取り囲んでいったとき、暗い闇が持ち上がり、それぞれの心にブレが生じていくのだった……。

●すべてを、愛さえも支配しようという父と、拒絶

する息子。そして自殺してしまった双子の妹に対する、兄の禁断の想い。愛と憎しみが両極に振幅し始めた時、家族に何が起こったのか。映画はその真実を、痛いほどに酷く描いていく。近年日本でも注目視されている“近親相姦”という問題が、人間の暗闇という問題に重なり合っていて、映画はラストへと収束していく——。

カンヌが驚いた、その衝撃の映画手法——【ドグマ95】純潔の誓い

●98年カンヌ国際映画祭。受賞式の舞台には、若く、まだ無名の青年が立っていた。その年の受賞者の多くが巨匠である中において、その若さはいっそう目立つものになる。しかもその受賞した作品の作風の重厚さは、とても29歳の演出とは思えないものだった。しかし、その作品はそういった巨匠的風格からじつは随分と掛け離れた場で作られた作品だった。なぜなら真実のみを追求するために、あるいは映画の救済のために、いままでの映画作りのセオリーからは想像すらできないような、“純潔の誓い”という十戒の中で作られたものだったから。十戒とは例えば、くすべてはロケーション撮影によって行う。小道具やセットは持ち込んでではない。く音楽は使ってはならない。く人工照

明の禁止。くカメラは手持ちカメラを使うなどといった十か条によって成り立っている。それを課したのは【ドグマ95】というデンマークの4人の映画監督の集団だった。“純潔の誓い”に署名したのは、デンマークを代表する『奇跡の海』のラース・フォン・トリアーほか、クリスチャン・レブリン、スーアン・クラーク・ヤコブソン、そしてカンヌの舞台に立ったトマス・ヴィンターベアの4人。そしてカンヌ国際映画祭審査員賞を受賞した『セレブレーション』は、この【ドグマ95】による最初の作品“ドグマ #1”であった。また同年のカンヌには“ドグマ #2”であるラース・フォン・トリアー監督作品『白痴』(The Idiots)がコンペティション部門に出品、そしてスーアン・クラーク・ヤコブソン監督によ

る“ドグマ #3”『ミフネ』(MIFUNE)が99年ベルリン国際映画祭において銀熊賞を受賞する快挙を成し遂げたのだった。

●映画の製作と同時に敷かれる、不文律のレールの上を当然の了解のように受け入れていくことの違和感を、この若い映画監督集団は感じとって、映画のある種の危機を打破しようとしているのだといえるだろう。ドグマの冠はないにしても、96年カンヌ国際映画祭審査員グランプリを受賞したラース・フォン・トリアーの『奇跡の海』ですでに、人工照明を使用せず、手持ちカメラで撮影、そしてチャプターごとの音楽以外に音楽を使用しないなどで、その試みが成功を収めていることは記憶に新しい。

制限があるゆえの、表現の解放

●以上のような試みゆえ、『奇跡の海』がラブ・ストーリー独特の甘さを一掃させることを成功させたように、『セレブレーション』においては、家族が根底から瓦解していく様が、制限された空間の中で真実が炙り出されるように描かれていく。絶対に強固なものであるがゆえの亀裂の速さと酷さが、戒律の中で見事な

異彩を放っているといえるだろう。

●この勇氣ある試みを最初に行ったのは、この作品が長篇第2作目となるトマス・ヴィンターベア。1969年生まれのため若く才能に、カンヌだけでなく、ニューヨーク批評家協会とロサンゼルス批評家協会がそれぞれ外国語映画賞を与えた。そしてゴールデングローブ賞、セ

ザール賞においても外国語映画部門ノミネートを受けている。またこの作品において、タクシー・ドライバーとしてカメオ出演し、ヒッチコックばりの演技をみせた。

●そしてこの映画には美術、衣装のクレジットがない。もちろん、【ドグマ95】の“純潔の誓い”の戒律によるものである。

1月15日(祝)より衝撃のレイトショー上映決定!! (1/28(金))

●よる9:00より(終映よる10:50)1回上映 ※日曜休映

1/29(土)~2/4(金)追加モーニングショー あさ10:30より(終映12:20)1回上映

特別鑑賞券1,400円絶賛発売中!! (当日一般1,700円/学生1,500円の処)

※劇場窓口、エスト1PG、チケットぴあにてお求めください。

“10th Anniversary”

梅田口フトB1 06(6359)1080

テアトル梅田

<http://www.cinemabox.com/>